

開講学科	建築学専攻	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	環境建築学特論	標準対象年次	選択/必修	科目コード		
		1, 2 年次	選択	33001101		
担当教員	坊垣 和明	単位数	学期	曜日	時限	
		2 単位	前期	土曜日	集中	
授業の教育目的・目標	<p>目的：人間と建築およびその内外の環境の相互の関わりの中から、建築のあるべき姿を理解させ、具体的に計画する能力を身につける。</p> <p>目標：①身の回りから地球規模に至る環境と健康・衛生問題のかかわりと重要性を認識させる。 ②環境と健康に配慮した建築・住宅・都市の設計・計画に必要な基礎知識を習得させる。 ③具体の環境配慮・保健衛生手法を理解させ、計画に反映できるようにする</p>					
学科の学修・教育目標との関係	<p>a 自ら問題を発見し、自ら調べ、自ら考えて問題解決する能力を持つ</p> <p>b 先端技術に関心を持ち、柔軟に対応できる応用力を持つ</p> <p>g 建築家が備えるべき安全性や快適性に関する基本的な知識を持つ</p> <p>i 建築の地域社会との関わりや、建築と環境の関係について考える</p>					
キーワード	地球環境、エネルギー消費、気候風土、環境共生、環境総合評価、環境建築行政					
授業の概要	<p>建築・住宅は、その建設・運用・廃棄の各段階において大量の資源とエネルギーを消費し、地球環境に大きな負荷を掛けていることから、二酸化炭素排出の削減に大きな貢献が期待されている。建築が地球環境に与える負荷を理解させるとともに、負荷抑制に必要な技術要素を解説し、実例を通して環境配慮型建築や自然共生型建築のあり方を議論し、建築の果たすべき役割と具体の建築計画への反映手法・計画技術を理解・修得させる。</p>					
授業の計画	<p>第1回：人と建築、環境との関わり方の基礎、快適性・効率性・健康性の構造</p> <p>第2回：人と建築、環境との関わり方の基礎、快適性・効率性・健康性の目標</p> <p>第3回：人と建築、環境との関わり方の基礎、快適性・効率性・健康性の実態と課題</p> <p>第4回：地球環境と建築Ⅰ；建築・住宅が地球環境へ及ぼす影響・負荷、建設段階を中心として</p> <p>第5回：地球環境と建築Ⅱ；運用時のエネルギー消費の実態、省エネルギー対策の要点</p> <p>第6回：地球環境と建築Ⅲ；ライフスタイルと環境、ライフスタイル変化の省エネルギー効果</p> <p>第7回：すまいづくりⅠ；日本の気候、気候マップ、建築手法</p> <p>第8回：すまいづくりⅡ；建築手法とその環境工学的評価</p> <p>第9回：建築手法の実例と評価に関するワークショップ（学生による事例の評価と提案）</p> <p>第10回：環境に配慮した住宅；日本各地の伝統住宅、環境配慮要素</p> <p>第11回：環境に配慮した現代建築；環境影響や省エネルギーに配慮した建築とその実例</p> <p>第12回：建築物の環境総合評価；環境総合評価の必要性、各国の評価手法、日本の評価手法CASBEEとその動向</p> <p>第13回：環境建築に関わる行政施策；国内外の環境建築に係る行政的な取り組みとその動向</p> <p>第14回：住宅における健康問題；シックハウスを中心とする健康にかかる問題と住宅・建築</p> <p>第15回：住宅における諸課題；最近の危機管理の諸問題と企業の社会性</p>					
受講条件・関連科目	受講条件：建築環境工学に関する基礎知識（学部レベルの建築環境工学を受講していることが望ましい）					
授業方法	PPTファイルによる映像を中心に、プリントを併用して解説する。数回に1回の割合でレポートを作成させ、そのプレゼンテーションと議論を通じて理解を深めさせる。					
テキスト・参考書	講義資料としてプリントを配付する。テキストは定めないが、参考となる図書は講義の中で紹介する。					
成績評価	・試験（ ） ・レポート（70%） ・その他（プレゼンテーション）（30%）					
履修上の注意	環境全般への興味と関心を持ち、積極的に取り組む姿勢を持つこと					